2019年(平成31年)
1月号(第6号)

まなづる 海の月報

発行者：真鶴町立遠藤貝類博物館
発行日：毎月25日頃

トピック まなづるの海・真鶴の海中の様子

冬の海でも育まれる生命

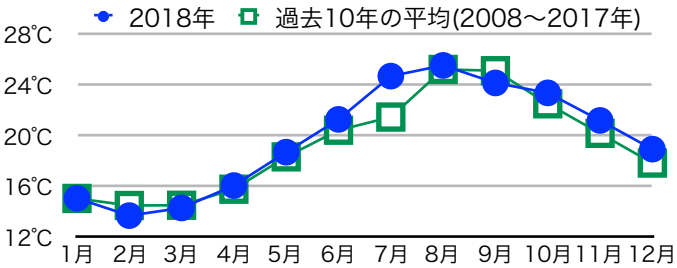
ダンゴウオ(左上)、海中の海藻(右上)、磯の海藻(左下)

冬も本番となり、寒い日が続いています。海もまもなく一番寒い季節を迎えます。低水温と日照量の低下の影響で植物プランクトンは少なく、海中の透明度は良くなりますが、秋にあんなに賑やかだった魚たちも少し減り、静かな海が広がっています。しかし、そのような海でも新たな生命が育まれ、たくましく生きています。ダンゴウオ(写真左上)はダイバーに人気の魚。冷たい水を好むこの魚は、真冬に比較的浅い場所や潮だまりで産卵に来たわずか1～2cm程度の個体を見ることができます。このあと、さらに小さな幼魚も見る機会に恵まれることもあります。ちなみに、幼魚は生後1ヶ月程度まで頭部に通称「天使の輪」と呼ばれるリング型の模様があります。そして、今はまさに海藻の季節。場所によって海の中も磯も美しい緑の海藻が広がります(台風などの影響で今年は例年より少ない場所も)。特に海中は透明度が良いため、浅い海底なら太陽の光が降り注ぎ、海藻の生育には絶好の季節を迎えています。

真鶴の海況

例年より少し暖かい海水温

真鶴周辺では、例年1～2月に最も海水温が下がります。秋から下降して来た海水温も通常であれば12月には17.8℃(過去10年の平均)程度になりますが、今年は、18.9℃でした。実は、11月くらいから南から流れてくる黒潮の流路が変わり、相模湾周辺が少し温度が高くなっています。日本列島太平洋岸の海の環境は、黒潮の流路の変化に常に影響されています。ですので、現状も「例年より少し暖かい」という程度で、「異常な状態ではない」と言って差し支えないと思います。<データ提供：横浜国立大学>

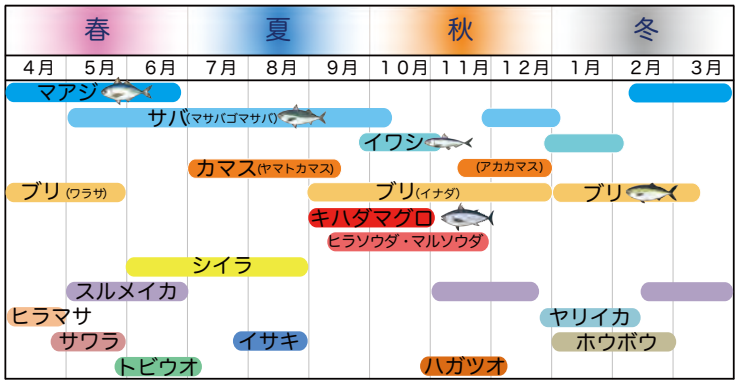


岩漁港沖 水深 10mの海水温の変化

真鶴の漁獲情報

厳冬期、漁獲少ない日が続く

水温も低く、魚の量が少ないだけではなく、活性も落ち、漁獲が少ない日が続いています。しかし、あとひと月ほどすると植物プランクトンが増え始め、海の透明度が落ちる「春濁り」を迎え、海に春が訪れ始めます。真鶴でブリが水揚げされるのもこれからのシーズンです。一見、大きな変化が無いような海ですが、海の中では色々な変化が起こってます。下記のように、真鶴で水揚げされる代表的な魚種も変化します。



真鶴魚市場のお魚カレンダー（それぞれの魚が主に水揚げされる時期）

今回写真でご紹介するのは、イシダイ。年末に水揚げされたものです。イシダイは、幼魚も磯の潮だまりや漁港の岸壁などでも見かけることがある、真鶴生まれ、真鶴育ちの魚です。特徴は黒の縞模様で、幼魚は特に可愛らしい姿をしています。この縞模様、大きくなると体全体が黒くなり、この縞模様は目立たなくなります。漁協の方のおすすめどおり、2日寝かせてお刺身と煮付けでいただきました。<情報提供：真鶴町漁協>

イシダイ

2019年2月の町立遠藤貝類博物館のイベント

2月 8日(金) 写真展「知られざる真鶴の海 2」(ダイバーから募集した写真)
町立遠藤貝類博物館で5/8(水)まで開催予定

2月 9日(土) 写真展オープニングイベント 13:45～14:30
町立遠藤貝類博物館
生物展示「真鶴の海の生物観察コーナー」 10:00～16:00
町立遠藤貝類博物館エントランス

2月10日(日) 海のミュージアム「真鶴半島ジオストーリー体験ツアー」
町立遠藤貝類博物館・真鶴半島【要予約・要参加料】

2月17日(日) 真鶴自然こどもクラブ「海辺の町をたんけんしよう」
真鶴町・湯河原町の小中学生対象、詳細は博物館へ

まなづる 海の月報は、町立遠藤貝類博物館 HPからダウンロードができます。プリントしていただいての掲示・配布歓迎です。

発行：真鶴町立遠藤貝類博物館　企画・実施：特定非営利活動法人ディスカバーブルー
協力：横浜国立大学（臨海環境センター）、真鶴町漁協、岩漁協（岩ダイビングセンター）、
船の科学館「海の学びミュージアムサポート」

海の学びミュージアムサポート
Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION